

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)長岡京物流センター計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体		
		Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	-		
1.2 遮音		-	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-		
1.3 吸音		-	-	-	-	-		
2 温熱環境								
2.1 室温制御		-	-	-	-	-		
1 室温		-	-	-	-	-		
2 外皮性能		-	-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-		
2.3 空調方式		-	-	-	-	-		
3 光・視環境								
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-		
1 昼光率		-	-	-	-	-		
2 方位別開口		-	-	-	-	-		
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-		
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-		
1 昼光制御		-	-	-	-	-		
3.3 照度		-	-	-	-	-		
3.4 照明制御		-	-	-	-	-		
4 空気質環境								
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-		
1 化学汚染物質		-	-	-	-	-		
4.2 換気		-	-	-	-	-		
1 換気量		-	-	-	-	-		
2 自然換気性能		-	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-		
4.3 運用管理		-	-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-		
Q2 サービス性能			0.43			3.7		
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-		
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-		
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-		
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-		
3 内装計画		-	-	-	-	-		
1.3 維持管理		-	-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性		3.1	0.50			3.1		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50					
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80					
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:塗床20年、壁:塗装20年、天井:デッキあらかし40年	5.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:塩ビライニング鋼管(B)、給湯管:銅管(D)、汚水管・雑排水管:塩ビ管(B)、2種以上にCを採用	4.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20					
2.4 信頼性		3.4	0.20					
1 空調・換気設備		3.0	0.20					
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20					
3 電気設備		3.0	0.20					
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20					
5 通信・情報設備	精密機械の地下空間への設置を回避、災害時使用可能な有線電話、FAX等を設置、ネットワーク機器に無停電装置を設置	5.0	0.20					

3	対応性・更新性		4.4	0.50		-	4.4
	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30		-	
	1 階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60		-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1未満	5.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり	床積載荷重4500N/m ² 以上	5.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性		3.6	0.40		-	
	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	ケーブルラック採用	5.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	PF管採用	5.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	—	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	バックアップスペースを確保	4.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)		—	0.57		-	2.7
1	生物環境の保全と創出	—	2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	—	3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30		-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性						3.3
LR1	エネルギー		—	0.40		-	3.6
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.90	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用	—	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの効率化	BEI _m =0.71	3.9	0.50		-	3.9
4	効率的運用		2.0	0.20		-	2.0
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00		-	
	4.1 モニタリング	—	3.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制	—	1.0	0.50		-	
	集合住宅の評価						
	4.1 モニタリング	—					
	4.2 運用管理体制	—					
LR2	資源・マテリアル		—	0.30		-	3.0
1	水資源保護		3.4	0.20		-	3.4
	1.1 節水	自動水栓、節水型便器を主要水栓の過半に採用	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.8	0.60		-	2.8
	2.1 材料使用量の削減	—	2.0	0.11		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.22		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	—	-	-		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS下地により躯体と仕上げ材が容易に分別可能、EPS、内装仕上げなし(倉庫エリア)により内装材と設備が錯綜せず容易に取外しが可能、OAフロア採用	5.0	0.22		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20		-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70		-	
	1 消火剤	—	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50		-	
	3 冷媒	—	3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境		—	0.30		-	3.3
1	地球温暖化への配慮	運用時のLCCO ₂ 排出量を低減	3.5	0.33		-	3.5
2	地域環境への配慮		3.5	0.33		-	3.5
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器の採用なし	5.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制	駐輪場・駐車場及び荷捌き用車両の駐車施設を確保、駐車場内一方通行等、交差点を避け位置に出入口を設置	5.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	—	1.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33		-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音	—	3.0	1.00		-	
	2 振動	—	-	-		-	
	3 悪臭	—	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制	—	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制	—	-	-		-	
	3 日照障害の抑制	—	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	3.0	0.70		-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30		-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)長岡京物流センター計画

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	4.0	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0	-	-	-	2.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0	-	-	1.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	2.0	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	3.0	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0	-	1.0	-	-	3.0	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標		窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)	
Q1 室内環境		U値(W/m2K)		屋根	
2.1.3 外皮性能		窓システムU値		外壁	
3.1.1 昼光率		住戸部分		床	
4.2.2 自然換気性能		窓システムU値		外皮UA値	
Q2 サービス性能		自然換気有効開口面積率		η AC	
1.1.1 広さ・収納性		自然換気有効開口面積率		η AH	
1.1.2 高度情報通信設備対応		執務スペース		0.0%	
1.2.1 広さ感・景観		0.0㎡/人		病床	
1.2.2 リフレッシュスペース		0.0㎡/床		シングル	
2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.0㎡/ツイン		0.0㎡	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		コンセント容量		0.0 VA/㎡	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		天井高		2.5 m	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		リフレッシュスペース		0.5%	
3.1.1 階高のゆとり		レストスペース		2.0%	
3.1.2 空間の形状・自由さ		想定耐用年数		0年	
3.2 荷重のゆとり		想定必要間隔		0年	
Q3 室外環境(敷地内)		想定必要間隔		20年	
1 生物資源の保全と創出		想定必要間隔		0年	
3.2 敷地内温熱環境の向上		階高		0m	
LR1 エネルギー		壁長さ比率		0.0%	
1 建物外皮の熱負荷抑制		床荷重		- N/m2	
2 自然エネルギー利用		外構緑化指数		38%	
3 設備システムの高効率化		建物緑化指数		0%	
LR2 資源・マテリアル		空地率		43%	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無		水平投影面積率		8%	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		地表面対策面積率		20%	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		舗装面積率		29%	
3.2.1 消火剤		BPI/BPI _m		0.60	
3.2.2 発泡剤(断熱材等)		断熱等性能等級		対象外 相当	
3.2.3 冷媒		自然エネルギー直接利用量		0 MJ/年㎡	
LR3 敷地外環境		採光を満たす教室数		0.0%	
2.2 温熱環境悪化の改善		通風を満たす教室数		0.0%	
		採光を満たす住戸数		0.0%	
		通風を満たす住戸数		0.0%	
		BPI/BPI _m		非住宅 0.71	
		住宅		- 太陽光 0.0kW	
		太陽熱		0.0kW	
		蓄電池		0.0kW	
		雨水利用率		0.0%	
		特定調達品目		- エコマーク商品	
		使用比率		0.0%	
		自治体指定の特定品目等		-	
		オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
		オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
		オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
		見付面積比		80% 隣棟間隔指標Rw 1.09	
		地表面対策面積率		32.0%	
		屋根面対策面積率		0.0%	
		外壁面対策面積率		0.0%	
		見付面積S _b		2.135㎡	
		卓越風向と直交する最大敷地幅W _s		115 m	
		基準高さH _b		22.99 m	
		緑地		906㎡	
		水面		㎡	
		保水性対策面		㎡	
		高反射対策面		㎡	
		再帰性反射対策面		㎡	